

令和6年度 自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムを構成している「情報基礎」は、全学部1年生の必修科目、「ソフトパス理工学概論」は理工学部1年生の必修科目となっている。全学生の履修状況については、Web Class(LMS)において課題やレポートの提出状況を確認できるほか、達成度評価システム(ポートフォリオ)により、各学生の修得状況を確認することができるシステムとなっている。さらに、プログラムの修得状況については、教学マネジメントセンターにおいて、全履修学生の成績評価の比率と学生アンケート結果を踏まえた分析等を行っており、その結果を全学教務委員会において確認し、各授業科目やプログラムの改善等についての審議を行っている。
学修成果	学生への授業評価アンケートの中で、満足度、学修時間、主体性、課題発見の契機、将来への有用性などの項目を設けており、満足度については96.1%の学生が履修してよかったと回答しているほか、データサイエンスの概念等について理解が深まったと回答した割合が95.1%、データの扱いや分析手法が身についたと回答した割合が95.1%と高い数字が見られた。 また、全学教務委員会において達成度評価システムによるディプロマポリシーの達成度の確認・評価分析を行っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生アンケート結果からは、「データサイエンスの概念や活用事例について理解が深まったか」という質問に「そう思う」と回答した割合が95.1%、「データの扱いや分析手法について身に付いたか」という質問に「そう思う」と回答した割合が95.1%と高い数字が見取れた。さらに、全履修学生の成績評価の比率の分析結果を全学教務委員会で確認しており、各授業のアンケート結果等による授業改善等を行っている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの構成科目である「情報基礎」については、全学生に身につけさせたい技法知科目としての必修科目となっているため、授業後の授業評価アンケートにおいて「後輩等に推奨したいか」といった質問はなく自由記述にも見られないが、「この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思うか」という質問に「役立つと思う」と回答した割合は99.0%、「この授業で学んだことを、さらに勉強したいか」という質問にも「そう思う」と回答した割合が91.9%と更なる学修への意欲について高い数字が見取られたことから、後輩等他の学生への推奨度も高いと推察される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成している「情報基礎」は全学部1年生の必修科目、「ソフトパス理工学概論」は理工学部1年生の必修科目となっているため、履修率は100%である。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムの修了生が卒業する令和7年度以降に、企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意し、外部からの評価を踏まえ、プログラムの改善に役立てる予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	いわて高等教育地域連携プラットフォームならびに経営協議会の場を活用し、地域産業界からの意見を伺い、教育プログラム改善の参考とする。令和6年度においては、経営協議会において教育プログラムについて説明を行い、意見交換を行った。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	令和6年度の学生アンケート結果からは、満足度96.1%、将来への有用性99.0%、更なる学修への意欲91.9%と高い数字が見取られたため、「学ぶことの楽しさ」や「学ぶことの意義」は理解されていると推察できるが、さらに本プログラムの修了生が社会人となった際の評価結果についてもプログラムの改善等に反映させていく予定である。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	令和6年度の学生アンケート結果からは、「授業の説明や指示のわかりやすさ」について、93.2%が「わかりやすい」という評価となった。令和4年度には教学マネジメントセンター主催のFD研修『数理・データサイエンス・AI教育の授業方法をめぐって』を開催して授業改善を図ったところであるが、今後も学生や企業などのステークホルダーからのアンケート結果を踏まえ、プログラムの自己点検評価・改善を行う予定である。

② 自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>